令和４年度　落一日記

５年生２学期
総合的な学習の時間

【落一エコプロジェクト～神田川について～】

１学期の落合蛍の学習を生かして、２学期は蛍が暮らす川と身近な川（妙正寺川、神田川）の環境を比べることから始めました。すると、蛍が暮らす川については「水がきれい」「緑が多い」「生き物がたくさんいる」という言葉が出てきたのに対して、身近な川については「ゴミが落ちていることがある」「匂いがする」「緑が少ない」「水はあまりきれいではない」という言葉が出てきました。

「落合」という地名は、妙正寺川と神田川という２つの川が落ち合うことが由来とされています。川を身近に感じていて、普段から目にすることの多い子どもたちですが、実際に川に触れたり、入ったりしたことがある児童は少なく、なんとなく「きれいではない」というイメージをもっていました。

そこで、神田川にアユが遡上するニュースを子どもたちに見せると、「えー！」という驚きの声が聞こえてきました。そして、「神田川はきれいな川なのか。」という課題をもって、神田川について調べていきました。

まずは、水質調査です。新宿区みどりの公園課の方に来ていただき、様々な試薬を使って、神田川の水を調査しました。「神田川の水って思ったより透明だ。」、「匂いはあるけれど、生き物が住みやすい水だったんだ。」と、様々な発見がありました。

次に、神田川に実際に入ってみようと計画していましたが、天候が悪く急遽中止になってしまいました。残念ではありましたが、その分、神田川の管理をしている方々にたくさん話を伺うことができました。

神田川にはアユをはじめとした魚だけではなく、餌となる水草や魚を食べにくる鳥なども多く生息していると分かりました。また、そもそも神田川という川が、井の頭恩賜公園にある井の頭池を水源としていることや、かつて「暴れ川」、「死の川」と呼ばれていたこと、落合水再生センターが水をきれいにしていることも知りました。

その後「どうやってきれいにしたんだろう。」、「昔の神田川ってどんな川だったのか。」、「生き物は増えているのだろうか。」など、出てきた疑問をもとに、それぞれ知りたいことを調べ、スライドにまとめていきました。

学習のまとめとして、作成したスライドを発表し、さらなる環境学習へとつなげていきたいと考えています。

今後も他人事ではなく、自分事として捉え、環境問題について考えていってほしいと思います。